真鶴町立遠藤貝類博物館
地域の海の総合的管理に向けた「海の学び」の発信

実施期間：平成３０年７月２５日（水）～平成３１年３月１７日（日）

【事業の内容・目的】

■町の海に関する情報を集約し、一般の方々が目にしやすい形で発信することで、町内全体での海洋リテラシー向上と、町外には「真鶴＝海の町」というイメージの定着を目指す。

■ 海を活かしたさまざまな体験型プログラムを実施し、多角的な「海の学び」を町内外に向けて展開する。

■ 海の学びの発信拠点として遠藤貝類博物館の存在感を町内外にアピールし、海の総合的なラーニングセンターとしての発展を目指す。

■ これまでの事業を通じて培った町内のネットワークを発展させ、海を活かした地域振興を推進し、市町村で実施可能な地域の海の総合的管理に向けた基礎づくりを行なう。

活動の様子

１．海の情報の集約と発信

a.「海の月報」の発信

【開催日時】平成３０年８月２５日（土）～平成３１年３月１７日（日）
【開催場所】遠藤貝類博物館、他町内１０箇所
【活動内容・目的】

●町民に海をより身近に感じてもらい、海は町の資源であるという共通認識を高めるために、また、町外者に真鶴＝海の町としての印象を強めることを目的に、町の海に関するさまざまな情報（海水温、漁獲、季節性の海洋現象など）を毎月とりまとめた月報を発信した。

b. SNS の発信

【開催日時】平成３０年９月２８日（金）～平成３１年３月１７日（日）
【開催場所】町立遠藤貝類博物館 海のミュージアム Facebook ページ
【活動内容・目的】

●町の海と沿岸域で見られる生物や自然現象、海中の様子などを、真鶴の見どころとしてインターネットで配信し、町の海へ継続的な関心を引き寄せるとともに、新たな訪問者の獲得を目指した。

c. 海と町の産業に関するテーマ展示

【開催日時】平成３０年１２月３日（月）～平成３１年３月１７日（日）
【開催場所】遠藤貝類博物館エントランスホール
【活動内容・目的】

●町の暮らしの中にある身近なものごとを通じて海に関心を持ってもらうこと、それをさらに深めること目的に、町の主要産業と海との関係を解説する展示を博物館内で行なった。

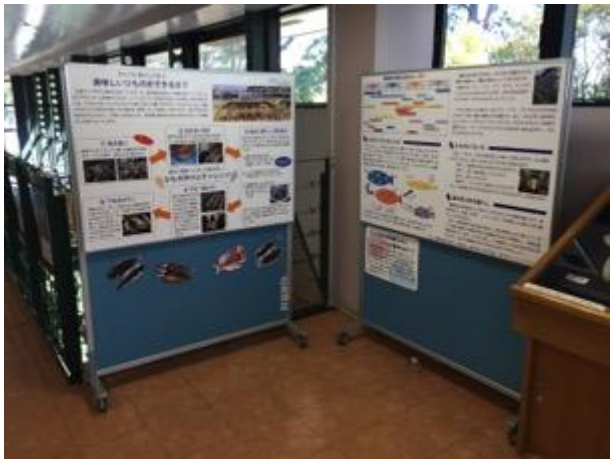
<u>SNS の発信</u>

町内の海と沿岸域の自然に関する写真入りのショートコラムを「町立遠藤貝類博物館 海のミュージアム」Facebook ページ上で発信した。SNS では主にタイムリーなニュースを発信し、「海の月報」ではより詳しい解説と継続的なテーマを掲載することで、海の学びを深めることができるよう心がけた。発信が進むうちに、町民からイルカの目撃情報を提供いただいたり、漁業者から定置網の海中の様子を許可いただくなど、町民と双方向のやり取りが生まれた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

「海の月報」の発信

町の海に関するさまざまな情報をわかりやすく解説した「海の月報」を毎月作成した。印刷した月報は、博物館内の他、町内小中学校、町役場、賛同いただいた飲食店など、町内 10 箇所に掲示し、また、博物館ホームページで pdf ファイルを公開した。制作にあたって、町の漁協、ダイビング事業者、町に研究施設をおく大学などにも情報提供を依頼し、博物館との連携を強めた。公開後、自主的に印刷して店に置いてくださる飲食店があったり、内容に関する問い合わせが来たり、教育委員や役場内で活用が話題にされるなどの反響をいただいた。



海と町の産業に関するテーマ展示

町の暮らしの中にある身近なものごとと海の関わりを紹介する解説パネルを作成し、博物館エントランスホールで展示した。テーマは、干物と漁業を紹介した「おいしいひものができるまで」、みかん栽培と海洋性気候を関連づけた「海をのぞむみかん畑」、石材・海運業と海流を関連づけた「小松石と海上の道」の３題で、月替わりで展示した。町の特産品であり、おみやげとしても一般に知られるものを前面に話題を展開することで、町民と町外者どちらも興味を持てるようにし、海が支える町の文化について気軽に学ぶことができる機会を作った。また、制作に際し、町の漁協、水産物加工業者、農家、海運会社、文化財担当者に協力いただき、連携を強めることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．海の入口の創出

a. 真鶴の海の生物 展示観察会

【開催日時】①平成３０年7月２６日（木）17：00 ～ 21：00
②平成３０年8月１４日（火）10：00 ～ 15：30
③平成３０年9月２３日（日）10：00 ～ 15：30
④平成３０年１１月１０日（土）10：00 ～ 18：00
⑤平成３０年１１月１１日（日）9：30 ～ 15：00
⑥平成３１年2月9日（土）10：00 ～ 16：00

【開催場所】①④⑤真鶴港（真鶴なぶら市、豊漁豊作祭会場）
②③⑥遠藤貝類博物館エントランスホール

【参加者数】合計 1720 人：①324 人、②75 人、③103 人、④676 人、⑤499 人、⑥43 人

【活動内容・目的】

●遠藤貝類博物館内または町のお祭り会場で、磯の生物のタッチプールと、プランクトン観察用の顕微鏡コーナーを設置した。普段海に接する機会がない方にも海に興味を持ってもらうことを目的とした。

b. 海に親しむイベント「海のミュージアム」

【開催日時】①夜のプランクトン観察
平成３０年8月１４日（火）１９：００ ～ ２１：００
②ひもの作り体験＆プランクトン観察
平成３０年１０月２０日（土）10：30 ～ 14：30
③三ツ石海岸ビーチコーミング～漂着物を集めよう～
平成３０年１２月9日（日）10：00 ～ １２：30
④真鶴半島ジオストーリー体験ツアー
平成３１年2月１０日（日）10：00 ～ １３：００

【開催場所】①岩漁港、岩地区集会所
②真鶴港、真鶴町観光協会
③遠藤貝類博物館、三ツ石海岸
④遠藤貝類博物館、お林、番場浦海岸、三ツ石海岸

【参加者数】合計 99 人：①27 人、②15 人、③31 人、④26 人

【活動内容・目的】

- さまざまな体験プログラムを通じて、海の多角的な楽しみ方を周知するとともに、海への興味を能動的な学びへ繋げ、海の持続可能な利用や環境保全を考えるきっかけづくりを目的とした。
- 気温が下がる秋～冬でも海に親しむことができる機会の創出と、海を活かした観光プログラムの実践として位置付けた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

c. 真鶴自然こどもクラブ（真鶴・湯河原町児童、保護者向け）

【開催日時】①ミニ水族館をつくろう！
平成３０年 10 月６日（土）９：３０ ～ １５：３０
②海の研究をたいけんしよう！
平成３０年１１月２５日（日）10：00 ～ １５：００
③お林をたんけんしよう！
平成３１年1月１９日（土）１３：４５ ～ １６：15
④海辺の町をたんけんしよう！
平成３１年2月１７日（日）１３：１５ ～ １５：30

【開催場所】①遠藤貝類博物館、三ツ石海岸
②横浜国立大学臨海環境センター、岩漁港
③遠藤貝類博物館、お林、番場浦海岸
④岩ふれあい館、岩地区の史跡、岩海岸

【参加者数】合計 149 人：①82 人、②29 人、③19 人、④19 人

【活動内容・目的】

●真鶴町・湯河原町の児童を対象に、さまざまな視点から海に親しむプログラムを提供した。海とともに歩む地域の文化を体験することで、地域の“これから”を考える機会に繋げることを目的とした。

<u>真鶴の海の生物 展示観察会</u>

遠藤貝類博物館エントランスホールに、町内の海岸で採集した生物を入れたタッチプールを設置し、来場者に直に生き物に触れてもらう機会を創出した。プランクトンや標本を観察できる顕微鏡コーナーも併設し、スタッフによる専門的な解説を実施した。また、町が主催するお祭りの会場（真鶴港）にも博物館のブースを出展し、多くの参加者に楽しんでいただいた。来場者の中には幼児や高齢者、身体障害者も含まれ、海へのアクセスが難しい方々にも海のおもしろさを伝えることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

海のミュージアム① 夜のプランクトン観察

真鶴の海の特徴と、海洋生物の生活様式による区分などを解説した後、漁港に移動し、手投げネットでプランクトンを採集した。室内に戻って顕微鏡下で各々採集したプランクトンを観察し、海の食物連鎖や海-陸のつながりについてレクチャーを行なった。参加者自身に採集と顕微鏡観察を体験してもらうことで、海のミクロの生物多様性を実感させ、レクチャー内容の理解を深めることができた。開催日をお盆に設定したため、小学生を連れた家族の参加が多かった。

海のミュージアム② ひもの作り体験＆プランクトン観察

ひもの作りを通じて町の主幹産業である漁業に触れ、合わせてプランクトン観察を行なうことで、漁業と海洋生態系との関わりについて知識を深めることを目的とした。参加者には当日真鶴の定置網で獲れたカマスを配布し、漁協の方に指導を受けながら、包丁で開くところから乾燥までを体験してもらった。参加者の中には初めて魚を捌く子どももいた。ひものの乾燥中にプランクトンの採集と観察を行ない、海の食物連鎖について説明した。魚を捌く過程で魚の口や胃袋を観察するため、プランクトン観察で円滑な理解につながった。また、ひものという手土産ができるため、参加者に好評をいただいた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

海のミュージアム③ 三ツ石海岸ビーチコーミング～漂着物を集めよう～

　寒い時期に直接水に触れなくても海を楽しむ方法の一つとして、ビーチコーミングを紹介した。町の海の特徴に関するレクチャーの後、海岸に出て漂着物を集め、先に配布した木製ケースにそれを並べて海辺の標本箱を作成し、参加者に持ち帰ってもらった。海辺で見つけた漂着物を手に取りながら、生物の分布と海流、海と陸上の繋がり、海洋ゴミなどについて解説し、標本箱の作成では、自然史標本の管理と活用について言及した。寒さのため海岸での活動時間を短めに設定したが、参加者数は多く、特に自然物を使ったクラフトに関心を持った新規参加者層が目立った。

海のミュージアム④ 真鶴半島ジオストーリー体験ツアー

　箱根ジオパーク指定のジオサイトである真鶴半島のお林、三ツ石海岸、海辺の採石場跡を歩いて周り、海の町である真鶴の自然、歴史、産業について学び、ジオパークの理念でもある持続可能な自然の利用を考える機会を作った。参加者には半島の地図を配布し、自分なりの書き込みができるようにし、また、イベントの最後に各自で気づいた「見どころ」を紹介してもらった。見どころとしてあげられた内容は、イベント後、博物館の無料スペースにある半島の見どころマップに掲載し、一般に向けて紹介した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

真鶴自然こどもクラブ① ミニ水族館をつくろう！

三ツ石海岸の磯で、手作りした仕掛けや網を使って生物を採集し、子どもたちの自由な発想で水槽展示を作らせた。水槽にはタイトルをつけ、見る人にコンセプトが伝えられるように、工夫した点などを紙にまとめさせた。海岸を訪れた一般の方々に水槽を見てもらい、子どもたちから説明を聞いたり、会話を楽しんでもらった。水槽を作ることと、人に魅力を伝えることという２つの目的を設けることで、単純に磯の生物と触れ合うだけではなく、生物ごとの特性や生息場所の違いを実感させ、地域の海の魅力の理解に繋げた。

真鶴自然こどもクラブ② 海の研究を体験しよう！

横浜国立大学臨海環境センターに全面的に協力いただき実施した。参加者をセンターの実習船に乗せ、沖合で層別採水と大型ネットを用いたプランクトンの鉛直採集を体験してもらった。その後、センターで水質の測定と顕微鏡を使ったプランクトンの観察を行ない、センター所属の下出准教授からプランクトンについて講義いただいた。水質データを前年までと比較し、データの読み方を理解してもらった。参加者数が多かったため、乗船班を２班に分け、待機中は海藻押し葉づくりを体験してもらった。乗船と専門機器の使用という非日常的な経験は、子どもの海への興味を深める機会になった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

真鶴自然こどもクラブ③ お林をたんけんしよう！

半島のお林を海岸まで歩きながら、古くから人の手で管理されてきたお林の歴史、海との繋がり、町の産業との繋がりについて説明した。コース上にいくつかチェックポイントを置き、そこでは足を止めて解説を行うとともに、自然を体験する設問を課した（力を合わせて大木の直径を測る、耳を澄ませて林内に届く波の音を聞く、など）。博物館に戻った後、地図入りのワークシートを使って内容を振り返った。シートは模範解答がなく自分なりの答えを記入する形式で、最後に感想を文や絵で記入してもらった。

真鶴自然こどもクラブ④ 海辺のまちをたんけんしよう！

岩地区の街並みや寺社を巡りながら海まで歩き、海とともに発展した町の文化を体験してもらった。博物館スタッフによる解説だけでなく、お寺の住職からもお話いただき、子どもたちにも質問する機会を設けた。海に続く水路ではテナガエビやハゼなどを観察し、生物の回遊について解説した。岩海岸で振り返りの時間を設けるとともに、簡単なビーチコーミングを楽しんだ。子どもが地域のコミュニティに混ざり、地域の自然と文化の繋がりを体験的に学ぶ機会を創出することができた。

【参加者の声】

◯魚だけでなく、小さな生き物まで、海が多様な生き物であふれていることを実感した。（真鶴の海の生き物 展示観察会）

◯ひもの作りをきっかけに海の仕組みまで学べてとても充実感があり、海が一層好きになった。（海のミュージアム ひもの作り体験＆プランクトン観察）

◯場所や季節で漂着物に違いがあるということを知り、各地の海岸を歩いてみたくなった（海のミュージアム 三ツ石海岸ビーチコーミング）

◯プランクトンは小さい。気持ち悪いけどとても役立っている。（真鶴自然こどもクラブ 海の研究をたいけんしよう！）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．海とともに暮らすまちづくり

a. 真鶴町役場職員研修

【開催日時】平成３１年3月1日（金）９：30 ～ 11：30
【開催場所】遠藤貝類博物館、お林
【参加者数】８人
【活動内容・目的】

●役場職員に町の海と自然の魅力を実感する機会を提供し、それを町の行政業務に活かす機運を高めることを目的とした。また、ワークショップ形式で意見を出し合い、自らアイデアを発案できる人材の育成を目指した。

b. 真鶴町観光ボランティアガイド交流研修会

【開催日時】平成３１年2月１３日（水）９：30 ～ 11：30
【開催場所】遠藤貝類博物館、お林、番場浦海岸、三ツ石海岸
【参加者数】７人
【活動内容・目的】

●町の観光協会に所属する観光ガイドとともに、半島のお林から海岸線を散策しながら、海と陸が一続きになった半島の自然を町の魅力として観光に活かす方法を議論した。

c. 真鶴町成人教育教養講座「くすのきゼミ」

【開催日時】平成３０年 11 月 19 日(月)１３：３０ ～ １５：３０
【開催場所】遠藤貝類博物館
【参加者数】３２人
【活動内容・目的】

●地域の自然と博物館が推進する「海の学び」について実感してもらうために、町の町民向け教養講座の一回を担当し、プランクトン観察と館内見学を実施した。

d. 真鶴の海中写真の募集と展示

【開催日時】平成３０年１２月１日（土）～平成３１ 年３月１７日（日）
【開催場所】遠藤貝類博物館、岩ダイビングセンター、他町内ダイビング事業者５店舗
【参加者数】44 人
【活動内容・目的】

●町の海の魅力、特に海中の魅力を発信するため、ダイビング事業者・団体と協力し、町に訪れるダイバーから、博物館の教育普及事業で用いる水中写真を提供いただいた。その教育普及事業の実例として、博物館内で写真展を開催した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

役場職員研修　海の自然を活かしたまちづくり研修会

役場の産業観光課と共同で開催した。同課は、現在町が進める町の将来構想立案事業で真鶴半島エリアを担当している。参加者と半島のお林を歩きしながら、半島の自然の特徴と、それを活かした博物館の教育普及事業について説明した。産業観光課からは、半島の保全の現状について解説いただいた。その後、博物館内で、半島の魅力と課題、それらを踏まえた活用案について意見を出し合うワークショップを行なった。当日は悪天候のため海まで歩くことはできなかったが、海と陸が一体となった半島の魅力を参加者に伝え、その保全と活用に向けた意識を共有することができた。

真鶴町観光ボランティアガイド交流研修会

真鶴半島の海とその周辺の自然に関する知識を町の観光ガイドと共有し、観光に活かすことを目的とした。ガイド側からの要望を受けて、事前に植物の分布を記した半島の地図を準備し、それを見ながらお林から海岸までを散策した。散策中、こちらからはお林や海に関する情報を提供し、ガイド側からは観光客がどのようなものに興味を示すか教えていただき、相互の知識を交換するとともに交流を深めた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

真鶴町成人教育教養講座 くすのきゼミ

くすのきゼミは、町が社会教育の一環として年４回開催する町民向け教養講座であり、主に健康、福祉、税務など関する講演を提供している。その一コマをいただき、遠藤貝類博物館で取り組む町の海を活かした教育普及事業を周知し、体験してもらう機会を設けた。当日は、顕微鏡を使ったプランクトン観察と博物館内の見学、町の自然に関するレクチャーを実施した。参加者からは好評をいただき、これを機会に、博物館を再訪してくださる方や、イベントのチラシ配布に協力いただける店が現れた。

真鶴の海中写真の募集と展示

町内のダイビング事業者を通じて、町に訪れるダイバーから海中写真を提供いただいた。その利用の一環として、写真パネルを用いた写真展「知られざる真鶴の海 2019」を博物館で開催した（２月８日～）。真鶴では海は身近な存在であるものの、海中にどのような光景が広がっているのか知る人は多くないため、町の海の魅力を町外だけでなく町内にも届けることを目指した。ダイバーと社会教育を繋ぐ機会を作り、写真展への来場を通じてダイバーが町に再訪するきっかけとなった。

【参加者の声】

◯海とつながるお林をどう守るか、そして「守る」とはどういうことなのか、大きな課題に感じた。（真鶴町役場職員研修）

◯真鶴は面積の小ささにも関わらず多様な動植物にふれあえる場所であり、観光資源としての価値を感じた。（真鶴町役場職員研修）

◯生き物や岩石などを実際に見ることで、海が人間にもたらす恩恵を具体的にイメージできた。（真鶴町観光ボランティア研修交流会）

◯潮騒を聞きながら、台風が海岸に運ぶものすごいエネルギーに思いを馳せた。（真鶴町観光ボランティア研修交流会）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

本事業では 17 件のイベントを展開し、計 2059 人（目標達成率 157%）に参加いただいた。イベントでは、これまでの培った経験と町内ネットワークを活かし、多角的かつ複合的な「海の学び」 に繋がることを心がけた。参加者からは、「町の魅力の再発見に繋がった」「保全について考えるようになった」「人間生活と海が繋がっていることを実家した」など好評の声をいただいた。イベント以外では、町の海と文化に関する情報を月報や展示といった目にしやすい形で発信し、印刷物を掲示してくださる商店が現れる、町役場内での活用が話題にされるなどの反応があった。成人教養講座や観光ガイド研修などでさまざまな町民層にアプローチしたこと、海に関する事業者に積極的な協力を働きかけたことで、町全体の海洋リテラシーの向上に寄与し、また、本館の「町の海の拠点」としての存在感を高めることができた。現在、真鶴町は町の将来構想策定に向けた種々の協議会を開催しているが、その中で本館は半島の沿岸環境の保全と活用に向けた仕組みづくりに取組んでいる。また、本事業により連携を開始した箱根ジオパーク協議会にも、ジオパークによる海の活動の展開をアピールしている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．真鶴町 教育委員会	真鶴自然こどもクラブの参加者募集、役場職員研修の起案、成人教育教養講座の共催、広報
2．真鶴町役場 産業観光課	町のお祭り会場での展示ブースの出店許可、役場職員研修の共催、広報
3．湯河原町 教育委員会	真鶴自然こどもクラブの参加者募集
4．横浜国立大学臨海環境センター	海の月報の情報提供、真鶴自然こどもクラブ（海の研究をたいけんしよう！）への施設提供と講師派遣
5．箱根ジオパーク推進協議会	海のミュージアム（真鶴半島ジオストーリー体験ツアー）の資料提供と広報
6．真鶴町漁業協同組合	海の月報への情報提供、テーマ展示への情報提供、海のミュージアム（ひもの作り＆プランクトン観察）の全面協力
7．岩漁業協同組合	海の月報への情報提供
8．真鶴町観光協会	海のミュージアム（ひもの作り＆プランクトン観察）の会場提供、観光ボランティアガイド研修交流会への協力、広報
9．真鶴町観光ボランティア協議会	真鶴町観光ボランティアガイド研修交流会の共催
10．真鶴町商工会	町のお祭り会場での展示ブースの出店許可
11．岩ダイビングセンター	**真鶴の海中写真の募集**
12．琴ヶ浜ダイビングセンター	**真鶴の海中写真の募集**
13．ダイビングショップ海家	**真鶴の海中写真の募集**
14．スキューバプロダイビングサービス真鶴	**真鶴の海中写真の募集**
15．東京フリーダイビング倶楽部	**真鶴の海中写真の募集**

16．ブルーアース21 都立大	**真鶴の海中写真の募集**
16．福浦ダイビングサービス	**真鶴の海中写真の募集**

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．湯河原新聞	名産ひもの作りを手解き（平成30年10月6日） ミニ水族館創った（平成30年10月16日） 港一帯が2日間賑わった！（平成30年11月13日） わくわく本格調査（平成30年11月27日） お林・岩地区を探検しよう（平成30年12月26日） お林探検・海と森の関係（平成31年1月22日） 知られざる真鶴の海（平成31年2月6日） 岩の町並み探検しよう（平成31年2月9日） 知られざる真鶴の海（平成31年2月10日） 自然や産業 くらし学ぶ（平成31年2月19日） まなづるの暮らしと海（平成31年2月22日）
2．広報真鶴	連載・ミュージアム便り（平成31年1月号、3月号）
3．海のミュージアムFacebook	テヅルモヅル、現る（平成30年9月28日） 赤潮発生（平成30年10月15日） イルカはいるか！？（平成30年10月25日） ツワブキ（平成30年11月2日） 海の中はトロピカル（平成30年11月6日） 中学生の職場体験（平成30年11月14日） イソギク（平成30年11月20日） お林の紅葉（平成30年11月30日） 真鶴の海の竜宮城（平成30年12月6日） 竜宮城のオトヒメ（平成30年12月21日） 新春アメフラシ（平成31年1月8日） 真冬のアイドル ダンゴウオ人気のヒミツ(平成31年1月23日） はんば（平成31年2月4日） 定置網のアンコウ（平成31年2月26日） ハマダイコンで花より団子（平成31年3月4日） ワカメゆらゆら（平成31年3月6日） 真鶴の川と海の自然（平成31年3月11日） 海辺の鳥たち（平成31年3月13日） 森から見える青い海（平成31年3月14日）

以上